

## 学生さんによる老人福祉？

当HPで時々触れた阿部ゼミ(?)の女子大生連中が、未内定の最後の一人から先ほどメールが入り、これで全員就職先が内定したようである。

単に、特別講義で一回講義に行っただけなのに、その日の延長講義(?)から始まり、しばしば夜の居酒屋や、我が家での講義(?)であった。社会通念・常識を、「子どもの立場で考えると、本当にそれでいいのかな？」と学生に問うのがゼミの特色だっただけに、内心、面接試験での学生の問答等を案じていた。それだけに、全員就職内定の報には、ホッとしたし、嬉しい限りである。また、ゼミのみならず、彼女達が先日の卒業記念旅行先から、代わるがわる途中の様子メールやお土産まで、この私という老人(?)に気遣いしてくれた。

姉には、「女子大生とゼミという名で飲み会していることで、いい気になっちゃあダメよ！学生さんに老人福祉をして貰ってるのだから、心から感謝するように！」と云われたものである(この話をある学生にすると、「さすが、阿部さんの姉さん！」と云われた)。

それだけに、本当にこの一年、彼女達に感謝、感謝である。

「生命活動の革新をたがいに助け合う関係こそ、人類一般における教育的係わり合い(梅津八三)」ということを、実感させていただき、心から楽しいゼミの一年であった。

4月からは彼女達が、幼児、障害児等と、その助け合う関係の係わり合う実践に取り組み、その楽しさを実感する日々であるように、心から願っている。

(2003年03月09日 記)